



広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2020. 11. 01

第 76 号

今年度の聖句

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る、天地を造られた主のもとから。（詩篇 121 篇 1～2 節）

求めなさい。そうすれば、与えられる。

広島女学院院長・学長 湊 晶子

2013 年の暮れも近づいた頃、突然広島女学院大学学長へのお誘いを受け大変戸惑ったことを思い出しています。「主のみこころ」と信じお受けしてから何と 7 年目となり、米寿を迎えてしまいました。ここまで責任を全うできましたのは只々皆様のお祈りとお支えによるものと感謝致しております。就任致しました時には多くの問題をかかえておりましたが、解決のため私は院長もお引き受けし、教職員全員は主にあつて一つになり、大学の内部改革を成功させ立ち直ることができました。また中高・大学・幼稚園間にも暖かい交わりが復活しました。

東京ではキリスト教主義の女子教育機関は沢山ありますが、広島県では広島女学院一校だけですので、女学院の存在意義を多方面の方々に知っていただく必要があることに就任と同時に気付きました。これまでの歩みの中で築かれたネットワークに助けられつつ、女学院の活動範囲を広げる努力を重ねてきました。

東京の同窓会の皆様には遠くから、広島の皆様には同窓会をあげてご協力いただきました。今年は新型コロナのためにすべての計画がキャンセルになり残念に思っておりますが、以下にこれまでお世話になりました諸行事を纏め心からの御礼を申し上げます。

・2014 年 9 月 23 日 新渡戸稲造・南原繁シンポジウム：「新渡戸稲造と砂本貞吉～日本キリスト教女子教育を支えた男たち～」湊 晶子：東京学士会館（出席者 300 名）

・2015 年 5 月 30 日 広島女学院大学公開講演会：「女子教育のこれからと平和」津田塾大学 國枝マリ学長、東京女子大学 小野祥子学長、広島女学院大学 湊晶子：ホテルグランヴィア広島（出席者 500 名）

・2016 年 9 月 24 日 創立 130 年記念講演とオルガン演奏：講演「女子教育が世界を変える」湊晶子、演奏：オルガニスト 湊恵子、彩花：広島女学院ゲーンズホール（出席者 540 名）

・2017 年～2018 年（全 5 回）大学・同窓会主催：「学長聖書研究会」広島女学院大学人文館 303 教室（延べ出席者 900 名）

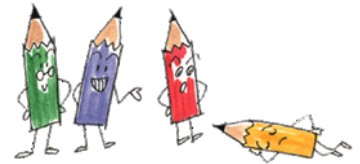
・2018 年 11 月 23 日 広島女学院大学主催 サロー節子氏特別講演会：「キリスト教女子教育と平和」砂本記念講堂（出席者 1100 名）

・2019 年 11 月 4 日 広島女学院大学開学 70 周年・学院創立 133 周年記念講演とシンポジウム：「真の国際人とは～グローバル化を支える教養～」広島大学 越智光夫学長、紀伊國屋書店 高井昌史会長兼社長、広島女学院 湊晶子：ホテルグランヴィア広島（出席者 530 名）

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。」（マタイによる福音書 7 章 7～8 節）

「求めなさい」、「探しなさい」等はすべてギリシャ語では現在形で書かれています。「求め続けなさい」と言う意味です。苦境の中に置かれた女学院が、求め続け、祈り続けることによってもう一度復活しましたことをご報告できますことは感謝です。皆様のこれまでものお祈りとご協力に心より御礼申し上げます。





蟻 と インターネット

千代崎 萌子 (高校 62 回)

同窓生のみなさま、こんにちは。千代崎萌子と申します。現在ニューヨークのストーニーブルック大学の博士課程でピアノを学んでいます。

2020 年が始まった時、まさか NY がこのような状況になるとは思っていませんでした。3 月頃からのコロナによる惨事、6 月には黒人差別に対する抗議運動、次々と閉まるお店、解雇される人々、social distance という冷ややかな言葉、生身の人間に会えず、毎日 Zoom で会議する日々。こんな中でも希望を持って過せているのは、私が信じている神様の憐みです。どのような経緯でここに導かれたのか、少し書かせていただきます。

「この学校に行けたら、きっと幸せになれる」女学院の受験日、そう思いました。1 歳から 11 歳までイリノイ州で過ごし、小学 6 年生で帰国した私は毎晩泣いて過ごしていました。慣れ親しんだ土地と友達のもとへ戻ることを祈り求める中で、母の母校であり、楽しかったといつも聞かされていた女学院への進学は、暗いトンネルの先に見えた光でした。

入学を許され、先生方の愛と忍耐により充実した 6 年間で過ごせたことを感謝しています。進路を決める時期になり、小学生からの願いである音大進学には、いくつか問題がありました。経済的な問題と、本当に音楽が好きなのかどうかという問題でした。最終的には「もっと学んで、音楽を好きになりたい。まだ辞めたくない」と、エリザベト音大を受験しました。エリザベトには奨学金制度があり、もしそれを得られなければ音楽は諦めるつもりでした。結果はゲーンズホールのステージ横のスタインウェイの部屋で聞いたのを覚えています。「神様が音楽の学びを許して下さった」と感激しました。母に「音楽は神様のもの。神様のご栄光を顕すために弾きなさい」と言われ、その意味を思い巡らしつつ、音大生活が始まりました。



エリザベトでは、学びは楽しかったのですが、自分の弱さに向き合う時でもありました。周りと自分を比較し落ち込み、嫉妬と自己憐憫の渦に溺れていきました。恩師に卒業後「アメリカに行きたい」という小 6 からの願いを吐露したものの、実力の無さ故、演奏の道は諦めて音楽療法の道に進むことにしました。ずっと戻りたかったイリノイ州で、音楽療法を学べる大学院に、願書と演奏動画を送り、スカイプ面接の準備をしました。しかしその頃、エリザベトの卒業演奏会に出ることになり、まだピアノを弾き続けたい気持ちが強くなっていきました。気持ちが揺らいだままの面接では、音楽療法への熱意を示すことができず、合格は諦めていましたが、驚くことに、ピアノ科の教授から「音楽療法への入学は難しいが、ピアノ科に来ないか。奨学金も出そう」とメールが来ました。神様は、私の諦めの計画とは違う道を備えて下さっていたのです。

イリノイ州立大学での 2 年目に出会った教授の紹介により、マンハッタン音楽院受験へと導かれました。Professional Studies という 1 年間のプログラムでの学びを許され、そこで博士課程受験のために準備をしました。しかし、その年に受けた大学は全て不合格。目の前が真っ暗になりました。



カーネギー小ホールにて

この時の私は、神様の計画よりも、私の計画通りに合格したかったと、神様に腹を立てました。最後の挑戦をするため、ビザを1年引き延ばせる制度を利用してNYに残ることにしました。最後のチャンスの年に、教会の中高生達と、聖書の学びをすることになりました。準備のために真剣に学んでいくうちに、私は、神様を救い主として信じていましたが、私の Lord（主、また王）として、完全には信頼していなかったと気づきました。自分にとってのベストは、自分が一番わかっている気になっていたのです。ある人の言葉「蟻がインターネットを理解できないのと同じように、私たち人間に神様の大きなご計画は理解できない」

のように、神様は私の理解を超え、世界を超え、全てを超えておられます。神様を私のちっぽけな計画を実行するためのアシスタントにしてしまうのではなく、私の王として、信頼し従いたいと、改めて思いました。そして NY で博士課程への道が開かれました。

その後も、右手の故障、燃え尽き症候群、今年はコロナや暴動など試練や訓練があります。その度に自分の弱さに直面しています。そしてその度に神様の恵み深さを益々知らされます。神様のことが見えない状況でも、確かにいて下さり、私を導いてきて下さったのです。

2020 年は世界的にも予想外の試練です。「神はいない」と絶望してしまうような状況、先も見えない状況ですが、私は、いつも神様がその真ん中にいて下さることを信頼し、平安と将来と希望を与える計画を持って導いて下さっていることを信じています。

「主は言われる、わたしがあなたがたに対していただいている計画は私が知っている。それは災を与えようとするのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである」（エレミヤ書 29:11）

「被服支廠のための」ラジオ局



広島市の最大級の被爆建物「広島陸軍被服支廠」の保存に熱い思いを抱く人たちの手で、今年6月に開局し、毎月15日と30日に配信。

これまでの配信は、YouTube でいつでも聴くことができます。

<https://hihukushoradio.jimdofree.com/>

毎回、異なった立場の方からの興味深いお話です。

ナビゲーターは同窓生の土屋時子さん（山口／高19・文日1）。

情報サイト＜Hihukusho-LAB＞も随時更新されています。



被爆 75 年に . . .

今年は被爆 75 年に当たります。皆様はこの節年をどのように受け止めていらっしゃるでしょうか？同窓生の皆様の想いを分かち合うため、メッセージをお送り頂きたいと、東京支部にメールアドレスを登録して下さっている 160 名余りの方々にお願ひしました。内容は、「被爆 75 年と聞いて、こんなことを思った」、「こんなイベントに参加した」、「次世代にこんなことを伝えたい」等々、被爆 75 年に因んだものなら自由で、文字数も自由としました。早く届いたものから順に掲載させていただきます。今後も引き続き募集しております。次号に掲載させていただきますので気軽にお寄せください。東京支部宛のメール (gaines_tokyo@yahoo.co.jp) でも郵送 (封筒の支部長の住所宛) でも結構です。

■小林悦子 (土生/高 46)

同級生に教えてもらった「オンラインとうろう流し」に参加しました。(インターネットを使い、とうろうに込める想いを書き込み、仮想空間の川に流します。) <http://tourounagashi.org/>
世界中の人と平和への想いを共有できるこのようなイベントがずっと続くといいなと思いました。

■田中法子 (中山/高 45)

外務省に勤めています。広島・長崎の被爆くから 75 年の今年、霞が関の若手女性職員を中心に、平和について考えるプロボノ(※)のプロジェクトチームを立ち上げました。その名も「Project2045」。被爆 100 年にあたる 2045 年までに、平和と安全を一層確かなものとする方途について業種を超えて学び、行動し、次世代に継承するプロジェクトです。霞が関メンバーを中心に、企業、メディア、教育機関、在京大使館等と共に活動します。活動内容については今後ソーシャルメディア等で発信いたしますが、ご関心のある方はご連絡ください。

(代表：田中法子 norinaka60@gmail.com)

社会人も折り返しとなりました。平和な社会づくりに向けて、できることから一步步進めていきたいと考えています。(※このプロジェクトは個人の責任において活動するものであり、発信内容は、政府の見解を示すものではありません。)

■鈴木章子 (岩田/高 19、文英 1)

大学在学中の戦後 25 年の年、秦知子先生の下で、昭和 20 年 8 月 6 日に在籍の生徒を対象とする「広島女学院 原爆被災実態調査報告書」の作成に関わったことを思い出しました。その後 50 年。コロナという形で、人と人との関わり合いが、どんなに大切かということを考えさせられた年でした。

■柏木 惇 (福富/高 3)

昭和 20 年 11 月末に私は外地の京城から母の故郷でもある広島に引き揚げて来ました。市内中心部には流川教会の聖堂や福屋デパートなどがどうにか残骸の中に立ち残っていました。女学校 1 年の私は、引き揚げのドサクサで在学証明書もないままに母に連れられて牛田山の女学院のバラック仮校舎に入学願ひに行きました。面接を受け付けて下さった原田先生は私達をご覧になり「遠くからの引き揚げご苦労さまでしたね」と労わって下さり、その日に入学を受け入れて下さいました。一学年は 1 クラスしかありませんでした。友人たちは被爆のせいで頭髪は抜け落ち、頭には三角巾をかぶり、ケロイド状の火傷の腕を吊っての通学の方もいました。窓ガラスは無く、板を打ち付けただけのバラック校舎でしたが、平和になった喜びの学生生活を過ごしました。やがて学制も新制になり、幟町の校舎が出来ました。

昨年 6 月末に、何十年振りに帰郷しました。ホテルの窓から見下ろし、広島の繁華街を見た時には、瓦礫の焼け野が原を想い重ね合わせて、平和の有り難さをつくづく痛感致しました。核の無い世界平和が続きますように、心から祈ります。

■西山朋子 (佐々木/高 22、文英 4)

8 月 9 日に日本橋公会堂での「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」を観に行きました。渡辺美佐子出演の映画、「月光の夏」と「誰がために憲法はある」、どちらも見応えがあり、渡辺美佐子さんのトークショーも興味深いお話でした。そして、その映画祭を主催されている広島出身の御手洗志帆さんという方、まだ 32 歳というのに今回で 9 回目の企画だそうで、本当にびっくりし、感銘を受けました。来年も是非拝見したいと思います。

■山田玲子（高5）

今年、広島・長崎は被爆後 75 年となる 8 月を迎えました。例年ならば、私は 8 月 5 日の正午頃に広島に到着して中央公園に向かい、東京の被爆者が植樹した祈念樹のケヤキに献水を行い、続いてこの 1 年間に亡くなった東京都の死没者名簿を、国際会議場内の臨時市役所出張所に提出します。

（今年は 179 名だったそうです。）そして、8 月 6 日当日は、平和記念式典に出席後、慰霊碑に献花をして、夕方には母校の己斐小学校に建立した慰霊碑前での「ピースメモリアル」というセレモニーに出席して、広島での日程を終えるのです。しかし今年は、コロナウィルスの感染拡大が続く中、やむなくホテルなどの全ての予約を取り消して、東京の自宅でテレビ中継を観ながら、黙祷を捧げることになりました。

当時、私は己斐国民学校の 5 年生でした。あの 8 月 6 日の朝は 8 時に登校して、友達と運動場の砂場にいました。その時、雲一つない青空に高く B29 が飛んできたのを見た途端に何も見えなくなり、走って逃げる私の背中に熱い砂が吹き付けてきて、地面に転がりました。そして、間もなく降ってきた雨でびしょ濡れになりました。

その日のうちに、己斐の町の道路はケガやヤケドを負った、およそ人とは思えない程に傷ついた人々が逃げてきて一杯になり、1 日目、2 日目と亡くなった人の死体が重なり合って延々と続いていました。その死体は、3 日目からはゴミのように集められて、小学校の運動場に掘られた壕で燃やされ始めたのです。炎天下、何の助けもなく、家族にも会えず、名前も確かめられることなく「茶毘に付された数は 2,300 人」という記録だけが残されています。

私は目のあたりにした、凡そ人間の死とは思えない無惨な姿を決して忘れることができません。あの日から 75 年を経た今もなお放射能の影響と思われる病で苦しんでいる人もいます。一瞬にして町を破壊し、大量無差別に人間の命を無惨に奪ってしまう核兵器は、この地球上に決してあってはならないものです。

私は、広島・長崎が 2 度と繰り返されてはならないという思いから、国内では毎年、国外ではこれまで 23 回 12 か国で、私の被爆体験と平和への願いを話し続けてきました。話し終わると、質問とともに常に共感と感謝の言葉を伝えて下さることで、喜びと勇気をもらっています。

アメリカの高校で、一人の男子生徒が「アメリカは日本にあやまりましたか？」と質問してきました。「いいえ」と答えた私の所にとんで来て、私に抱き着いて「ごめんなさい、私が日本の皆さんに謝ります。日本人は、アメリカ人を憎んでいますか？」と泣きながら聞きました。「私たちが憎んでいるのはアメリカ人やあなた方ではなく核兵器です。」と答えますと、ホッとした顔をしました。

フィンランドでは、兵役を拒否した若者の学校で、一人の青年が立ち上がって「大変でしたね。戦争はあまりにも悲しいです。」と言って、涙ぐんだ目でじっと私の顔を見つめていました。

イギリスのコベントリー大聖堂での集会では「ヒバクシャが受けた差別とは？」「ヒバクシャの体は、もう何事もなく安心と言えますか？」などの質問が続いた最後に神父様から「原爆で死んだ人たちは、平和のために、平和の礎となって死んだと思いますか」と聞かれました。私は「平和のために何故、尊い命の犠牲が必要なのでしょう。核兵器はその後も製造され続け、今もなお存在し、平和とは程遠い世界になっています。亡くなった人達はどのようにあのような殺され方をされたのか今も分からないまま、無念の思いで一杯だと思います。生き残った私たち被爆者は、使命として核兵器の被害を世界中に伝え、2 度と同じことがくり返されることのないようにと訴え続けています。亡くなった人達が「平和の礎」として死んだと思える日が一日も早く来るようにと願っているのです。」と答えました。

慰霊碑に刻まれている「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」の言葉が、多くの人の胸に刻まれますようにと、今年 75 年目の夏に、私は祈りました。



伝言板

巻頭言をご寄稿頂いた湊晶子院長・学長が今年度末で任期を終えられます。
この7年間、広島女学院の大変な時期に、熱いご愛情を注ぎ続けて頂いたことに心からの感謝を捧げます。



- 夏雲の集いの企画で呼びかけた丸木美術館への寄付にご協力頂き、有難うございました。
- 今年の「あやめの会」は残念ながら中止いたします。また来年をお楽しみに。
- 手芸部活動も当面休止いたします。再開の折には、メールでご連絡いたします。

- 80歳を超えても会費を納入して下さる65名の方々に感謝のカードをお送りし、役員の松岡理乃さん（木沢/高30）手作りの手の込んだカードに、お礼状をたくさん頂きました。
- 広島女学院同窓会関東ブロックはFacebookで情報を発信しています。情報を確実にお届けできるよう、ページに「いいね！」をお願いします。
- 東京支部にメールアドレスを登録して頂くとリアルタイムで情報をお送りします。これまでの登録者が160名を超えました。ご希望の方は東京支部宛にメールをお送りください。gaines_tokyo@yahoo.co.jp
なお、携帯のアドレスを登録される際は、パソコンからの受信を拒否する設定になっていないか、確認をお願いいたします。



「AIとカラー化した写真でよみがえる 戦前・戦争」

庭田杏珠・渡邊英徳 著 光文社新書 ¥1650 (2020/7/15 発刊)

高校1年生の時、濱井徳三さんに見せて頂いたアルバムには、戦前のご家族との幸せな日常を写した白黒写真約250枚が収められていました。「ご家族をいつも近くに感じてほしい」という思いから、私は白黒写真のカラー化の取り組みを始め、その後も資料や対話を通してよみがえった様々な「記憶の色」を再現しています。
写真集の出版にあたり、私は子どもたちの目線から写真を選びました。戦争は子どもたちを含む一般市民も巻き込まれてしまうものなのだと伝えたかったからです。本書を通して、戦争や平和を自分ごととして想像してほしい。そして、感じた想いをまた、大切な友達や家族に伝えてほしいと思います。これが、今の私にできる戦争体験者の「思い・記憶」の新しい伝え方です。(庭田杏珠・高校72回卒、東京大学在学中)

支部会費納入のお願い

日頃よりご支援・ご協力を有難うございます。
支部活動は会員の皆様方の会費に支えられています。

今年度の会費が未納の方に振替用紙を同封しています。
2000円の納入をお願いいたします。

80歳以上の方も、お気持ちがありましたらお願いいたします。

振替用紙にはできるだけ電話番号とメールアドレスをご記入下さい。

銀行振込もご利用いただけます。
三菱UFJ銀行 高田馬場支店
普通預金0473771 広島女学院同窓会東京支部



みんなの広場

・・・ 会費の振込用紙通信欄や支部宛のメール、お手紙から ・・・

◆寺井伊都子（高女 52）：コロナで何もかもダメダメの時に支部ニュースはカラーで出来、おめでとうございます。横浜指路教会の藤掛先生のメッセージ、嬉しいですが、夏雲の集いに集えず、残念ですね。私もスマホで一人礼拝しております。

◆西尾 操（高 4、大英 4）：東京支部ニュースを有難うございました。いつも楽しみに読ませて頂いています。今回は、役員の皆さまの顔写真とメッセージのページがあり、大変身近に感じ、嬉しく思いました。ご活躍を心より感謝しています！！

◆越知廣子（高 4）：80歳を過ぎても、NGO、NPO 団体等で働いております。益々のご活躍を！

◆大之木都茂美（高 6）：大変な日々、お変わりないことを信じます。皆様、更にお大事に。

◆佐々木典子（高 9、短大 8）：支部役員の皆様方のご尽力、深く感謝申し上げます。

◆辻 貴美枝（高 9）：中学時代からの友達と連絡を取り会っています。楽しいですよ。支部ニュース、いつも有難うございます

◆鈴木智子（高 11）：今年 6 月で満 80 歳になります。これからも仕事をしながら一日一日を元気・笑顔で生きていきます。再会を楽しみに。

◆田村紀子（高 11）：皆様のご健康をお祈りします。私も 80 歳になりますので、寄付を兼ねて・・・

◆村上宏子（高 12、短大 11）：いつも有難うございます。With Corona. 負けないよう頑張ります。

◆大野ゆかり（文英 13）：コロナのため、在宅で通訳、翻訳をしております。

◆竹澤サトコ（高 15）：世界が大きく変動していますね。そんな中、「同窓生の輪」にあった「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんな事にも感謝しなさい」という聖句は重いです。

◆新城香代子（高 17）：支部ニュースも年々立派になり、積年のご苦勞を推知しております。

◆佐藤芳子（短大 19）：被服廠ラジオ、聴きました。母と同じ年の方の語りに、一中 1 年生の弟を探し出した処と聞き覚えていた事、母の介護施設を探す折、道に迷い、真夏の日差しの中で偶然、被服支廠の横を通った事を思い出しました。初めてのこの場所は、ただの通りすがりの古い建築物ではなくて、この赤いレンガの建物をめざして探し回ったたくさんの人の気持ちがあるように感じ、レンガに手を置いて、しばし祈った次第です。

◆釘本久美（高 23、文英 5）：コロナ禍の状況でのご苦勞様です。ありがとうございます。収束を心から願いながら、日々感謝して過ごしたいです。

◆佐藤美代（高 23）：中味の濃い支部ニュースを有難うございます。素晴らしい同窓生がいらっしゃり、礼拝の写真なども懐かしいです。

◆柏井郁子（高 24）：一日も早く平穏な日々が戻りますよう、世界が平和であり続ける様祈ります。皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

◆藤居阿紀子（高 25）：地域で福祉や平和の活動を地道に続けています。同期メンバーを誘って支部活動に参加したいと思っています。

◆井上寿子（高 46）：宛名が大変綺麗な字で書かれたハガキが届き、東京支部からと知って、さすがだなと思いました。字は書いた人の体を表すので、間違いなく素敵なお方なのだろうなと思いました！

クリスマス礼拝

12月8日(火) 午後1時半～3時半 (受付開始 1時)

日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会

素敵な池の上教会でクリスマスを祝いましょう！

礼拝・説教：千代崎満子 牧師 (東京支部宗教委員)

奏楽&ミニコンサート(パイプオルガン)：湊 恵子さん (湊院長のご長女)

～ 懇親会、手芸作品のミニバザーもお楽しみください ～

感染対策はしっかりいたします
マスクをご着用ください

〒181-0011 東京都三鷹市井口 3-15-6 Tel:0422-33-0018

JR 中央線 武蔵境駅下車 (特快は止まりません)

武蔵境駅南口バス停3番 小田急バス 狛江駅北口行き(境 91)

12:55 発か 13:11 発で 3 つ目の武蔵境営業所前・池の上教会前下車 (220 円)

*駐車場も利用可

